

岸本奨学金報告書

【スケジュール】

- 3月1日 AM 学生登録 PM 病院案内
- 3月2日 AM・PM 実習科変更の交渉
- 3月3日 AM・PM 心臓外科手術見学
- 3月4日 AM Echo Meeting・Cardiology Conference・回診
PM Cardiology Clerking
- 3月7日 AM Renal Medicine Conference・回診
PM X-ray Meeting・Renal Medicine Clerking
- 3月8日 AM Renal Medicine Conference・回診
PM Dr. Banerjee Teaching・Pathology Lecture
- 3月9日 AM Lecture・Student Ground Round PM Sports Day
- 3月10日 AM Renal Medicine Conference・回診
PM Professor Oliveira Clinic 見学
- 3月11日 AM Renal Medicine Conference・回診
PM Professor Oliveira Teaching
- 3月14日 AM Renal Medicine Conference・回診
PM X-ray Meeting・Renal Medicine Clerking
- 3月15日 AM Renal Medicine Conference・回診・Renal Medicine Clerking
PM Dr. Banerjee Teaching・Pathology Lecture
- 3月16日 AM Lecture・Student Ground Round PM Sports Day
- 3月17日 AM Renal Medicine Conference・回診・Acute Medicinal Unit Clerking
PM Professor Oliveira Clinic 見学
- 3月18日 AM Renal Medicine Conference・回診・Renal Medicine Clerking
PM Professor Oliveira Teaching
- 3月21日 AM Renal Medicine Conference・回診・Acute Medical Unit Clerking
PM X-ray Meeting・Renal Medicine Clerking
- 3月22日 AM Renal Medicine Conference・回診・Renal Medicine Clerking
PM Dr. Lim Clinic 見学・Pathology Lecture
- 3月23日 AM Lecture・Student Ground Round PM Sports Day
- 3月24日 AM・PM Catheter 見学 PM Renal Medicine Clerking
- 3月25日 AM Cardiology Conference・回診・Cardiology Clerking
PM Professor Oliveira Teaching
- 3月28日 AM・PM Catheter 見学 PM Cardiology Clerking
- 3月29日 AM Renal Medicine Conference・回診
PM Dr. Banerjee Teaching・Pathology Lecture

【今回の活動】

私はこの度、医学教育振興財団の選考を経て、ロンドン大学セントジョージ校に短期留学してまいりました。Visiting Elective Studentという立場で、2011年3月1日から3月29日の間、現地の4年生(5年制)と同じ臨床教育を受けてきました。

英国では最初の診療を General Practitioner が担うという制度上、プライマリケアのできる一般内科医をたくさん養成するという医学部教育の目標があります。そのため、日本の医学教育とは置かれている重点が違うように感じました。また、その医学教育を可能にする文化的・気質的な違いも感じました。英国の医学生の行動目標は、患者さんを診察することができ、その鑑別診断が挙げられ、それらに対する適切な対処を理解していることです。

その能力をトレーニングするために英国の医学教育が行っている最も特徴的な違いは、Clerking であつたと思います。Clerking とは、白紙の状態で学生が患者さんの所へ出向いて、医療面接と身体診察を行って所見を取り、カルテに記載した後、鑑別診断を考え、その後に行うべき検査や処置等をコンサルタントと議論するものです。驚くべきことは、この Clerking をどの病棟のどの患者さんに行ってもよいということでした。5年生の学生はほぼ完全にこれができるようになっており、それに加えて採血やルート取りもするなど、レジデントドクターの手伝いをしていました。

その他、プレゼンテーション能力を重視する教育方針を表すものとしては、X-ray Meeting や Student Ground Round があり、実践的な教育内容を示すものとしては、Teaching や Lecture がありました。X-ray Meeting は、学生が病棟の患者さんを一人ずつ選び、その人のレントゲン写真を放射線科医と検討するというものです。放射線科医が学生にレントゲンの所見を述べるように促し、気づいてない部分は放射線科医が補い、指導されました。Student Ground Round は毎週行われている症例発表会で、学生がコンサルタントの指導の下、病棟の患者さんの症例を全員の前で発表するものです。このように、学生のうちから、プレゼンテーション力を高めるトレーニングがなされていました。Teaching で伝えられる内容は、心電図や検査値の読み方もありましたが、医療面接および脳神経所見、心雑音、心尖拍動などの身体所見を実際に患者さんで取ることに重点が置かれており、そこからどのような鑑別診断が考えられるかというところに行き着いていました。また、Lecture では、症例を起点として、その生理学的、病理学的考察を行っており、病態の理解を深めるものでした。

【成果・感想】

Sign と Symptom から何が考えられ何をすべきかという、General Practitioner に必要な能力を身につける教育がなされており、その考え方が養われました。また、Clerking する機会を圧倒的に多く与えられていたので、当初に比べそれは上達しました。さらに、発言、発信することが当然のこととして求められるので、それが(英語で)できるようになることの必要性を痛感しました。今後日本でも Generalist は必要になってくると思っていますが、身体診察などを学生に体系的かつ実践しながら指導できるようにするためには、患者さんの理解と協力が必要であると感じました。